

## 6 ハボタン黒腐病の防除対策

### ねらいと成果

ハボタン黒腐病は、ザントモナス属細菌による病害で、葉の縁よりV字型に褐変を起こすとともに、斑点症状を起こす。時として症状が斑点だけの場合がある。近年、生産農家でこの黒腐病がまん延し、防除対策が急がれているため、予防効果を主体にした薬剤防除試験を行った。その結果、マンゼブフロアブル、有機銅フロアブルの予防効果が高かった。

### 内容

#### 1 試験方法

防除試験は農業技術センター内ガラス室で「紅はと」を用いて行った。7月27日に128穴トレイに播種し、8月30日に9cmポットに定植した。その後は底面吸水で管理した。黒腐病細菌懸濁液 $1 \times 10^6$  cfu/mlに、tween 20を0.05%となるよう希釈添加し、9月28日に十分量噴霧接種した。接種後は2日間ポリ袋で保湿した後、じょうろで軽くかん水し、発病を促した。薬剤処理については、プロベナゾール・フィプロニル粒剤を播種5日後の8月1日に8g/

128穴トレイの割合で施用した。散布剤は有機銅フロアブル800倍液、マンゼブフロアブル500倍液、バリダマイシン液剤800倍液を1回または2回散布とし、粒剤と組み合わせるなどして散布した（詳細は表のとおり）。

無処理区を含めて9区各区5株3反復とした。発病調査は細菌接種後11日及び19日後の10月9日と17日に、全株について、展開上位葉から7葉ずつについて、発病葉数及び病斑数について調査した。

#### 2 試験結果

図に示すとおり有機銅フロアブル、マンゼブフロアブルの予防散布で高い防除効果が得られた。粒剤散布は、細菌の接種までに日数を要したためか、効果が判然としなかった。バリダマイシンも接種後の散布では効果がなかった。

#### 今後の方針

プロベナゾール粒剤等抵抗性誘導剤の効果的な施用方法について検討する。

神頭 武嗣（農業技セ・病害虫防除部）

表 薬剤処理区の構成

	処理月日	8/1	9/11	9/26	9/28	10/5	10/12
I	7°ロバナ・フィア°粒剤	—	—	—	接種	—	—
II	7°ロバナ・フィア°粒剤	—	—	—	接種	バ	バ
III	7°ロバナ・フィア°粒剤	—	—	有	接種	有	バ
IV	7°ロバナ・フィア°粒剤	—	—	マ	接種	マ	バ
V	7°ロバナ・フィア°粒剤	—	マ	マ	接種	バ	バ
VI	—	—	マ	マ	接種	バ	バ
VII	—	—	有	有	接種	バ	バ
VIII	—	—	—	—	接種	バ	バ
IX	—	—	—	—	接種	—	—

※7°ロバナ・フィア°：7°ロバナゾール・フィア°粒剤、有：有機銅フロアブル、マ：マンゼブフロアブル、バ：バリダマイシンの略

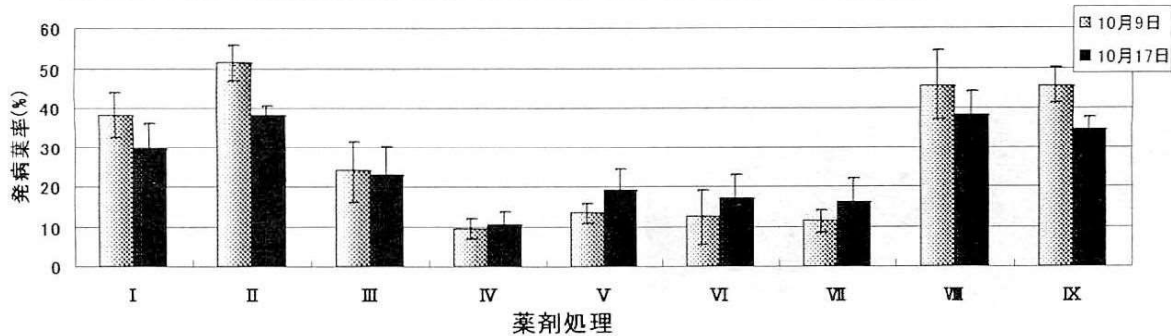


図 各種薬剤の防除効果